



Vol.32 デマンド交通「めぐるくん」に乗務する
みかみりな
三上 莉奈さん

町内3路線で町民の足として運行されているデマンド交通「めぐるくん」。11月15日時点で、利用者登録は500人を超えました。事前予約で、都合がよい時間に利用できる利便性が好評です。あつまバスで経理事務をこなしながら、北部地区線で「めぐるくん」に乗務する三上莉奈さんを訪ねて話を聞きました。

「めぐるくん」を通じて町の活気につなげたい

生粋の厚真人で、札幌市の専門学校時代以外は厚真町で暮らしています。学校を卒業後、町役場の臨時職員として働きましたが、間もなく父が経営するあつまバスに就職。中型免許や大型二種免許を取得して送迎の仕事に備えました。最初に「めぐるくん」(当時は循環福祉バス)に乗務したのは約6年前。「土地勘はありましたが、利用者さんの自宅が分からず、事前に下見したこともあります。到着時間も決まっていて、緊張の連続でした」と三上さん。乗降の際の声掛けで精いっぱいだったと振り返ります。

デマンド交通に切り替わってからは、最近ではほぼ連日乗務しています。顔馴染みの利用者からは「お姉ちゃんや」「莉奈ちゃん」と呼ばれています。カートなど荷物の出し入れを手伝うこともあり、笑顔の迎えを心がけています。運転席の近くに座って、世間や家庭での出来事を話しかける人や戦時中の食料難などに悩まされた話をする人など、目的地に到着するまで和やかな会話が続きます。利用者の「今日もすごく助かったよ。ありがと」の感謝の言葉が励みになっています。

ドライブが趣味で、はやりの曲を聴きながら、友人と日帰り旅行に出かけることもあります。「お気に入りの曲を流して、車内で友人と一緒に歌うこともあります。一つのストレス解消法でしょうね」と、プライベートな一面も教えてくれました。

「めぐるくん」=高齢者のための移動手段」というイメージを払しょくしたいと思っています。「放課後、習い事に通う小学生や高校生も利用しています。町民の身近な公共交通手段として、さらに幅広い世代に利用してもらえたらいいですね」。

「利用者間のつながりを深め、さらに町の活気につなげたい」。今後の目標です。

厚真で暮らす人、働く人、応援してくれる人、訪れる人・・・
みんな、みんな、ATSUMA LOVERS